

地域おこし協力隊の挑戦

カメラマンである「かすがい夫婦」が外からの発想やアイデアを活かし、写真や動画を通じた情報発信や地域資源の掘り起こしなどに挑戦しています。

シマエナガ総選挙
結果発表はこちら



シマエナガで村おこし

今年8月、さるふつ村観光協会と一緒に開催したシマエナガ総選挙の結果が9月中旬に発表されました。シマエナガ総選挙は、お気に入りのシマエナガの写真にタイトルをつけて投票し、猿払村で暮らす14羽のシマエナガの頂点を決める企画です。

応募者の方からは、「初めてシマエナガを知った」「可愛くて癒された」「見ているだけで幸せな気分になれた」などと、嬉しいお言葉がたくさん寄せられました。

タイトルの由来やニックネームにも猿払村を応援する意味が込められていたり、シマエナガへの思いが溢れていたりして、どれも素敵なものばかりでした。

ここではベスト3に選ばれたシマエナガの写真タイトルをご紹介します。全順位の結果は、私たちが運営する猿払村の写真投稿＆情報サイト「猿払村ぐらし」をご覧ください。
(春日井さつき)



1 小さい冬、みつけた

由来：シマエナガのくちばしに加えている少量の雪を見て君も冬をみつけてきたんだねという思いから。

ニックネーム ちとら



2 熱燗で

由来：みんな可愛いけど、この写真がなんとも言えない哀愁が漂っていて…疲れたサラリーマンを想像しました。

ニックネーム 藤桃



3 黄昏時の妖精

由来：この写真が私には、夕暮れ時の写真に見えました。そして、妖精さんみたいに可愛くてかっこいいなと思いこのタイトルにしました。

ニックネーム 雪だるま

新たな農業に挑戦

vol.6

■ 葉物野菜の栽培が開始！

猿払村の「イチゴ・葉物野菜」の栽培もいよいよ2期目に突入しました。9月下旬に、2棟ある園芸ハウスのうち1棟は、イチゴ栽培に使用していた高設ベンチやプランターなどを全て撤去しました。土に肥料や石灰などを混ぜながら耕運機で土を耕し、畝を立てた後にマルチ※をかけ、苗の定植が完了。いよいよ「葉物野菜」の栽培を開始しました。



※マルチとは…野菜の生育に必要な土の温度調整などを行うため、黒いビニールを畝に覆いかぶせるもの。

■ どんな野菜を育てるの？

育てる野菜は、昨年同様6つの品種を栽培します。これら野菜の選定には「寒さに強いこと」を第一条件として、北海道立総合研究機構農業研究本部の皆様に助言をいただき、「無加温」による暖房コスト不要な栽培が可能な品種を選定しました。

栽培する葉物野菜

- ・リーフレタス2品種
- ・ミニ白菜
- ・チンゲン菜
- ・小松菜
- ・ほうれん草



■ 冬でも野菜は穫れるの？

冬でも収穫は可能です！しかし、いくら寒さに強いといっても限界はあり、氷点下を下回る環境でも元気に育つというものではありません。まずは、温度が下がってくるまでに収穫が可能な状態まで野菜を育てることが重要で、その後、11月頃からの低温状態が続くことで、野菜本来の甘みが増し、12月に収穫し出荷を行うこととなります。

■ イチゴの収穫はいつまで？

3月から行っているイチゴ栽培は、いよいよ今シーズン終盤に近付いてきました。これからの時期は、気温が下がりますが、イチゴにとっては低温が続くことで実が甘く大粒になり、しっかりとした硬さで食べ応えのあるイチゴが収穫できる時期となります。とはいえ、野菜の栽培同様、寒さによって成長が緩やかとなり、栽培を続けるために「暖房」が必要不可欠となることに加え、国産イチゴの供給量が一気に増えることから、11月下旬頃に収穫を終え、来年度への栽培に向けた準備へと移ります。

1 イチゴ設備をすべて解体し、葉物野菜の栽培へと切り替えました。

2 低温の日が続くことで、甘く大粒なイチゴが収穫できます。

